

## 高齢者虐待が疑われる事例に対する地域包括支援センターの家族支援の要素

○ 横浜創英大学 河原 智江 (会員番号 7266)

梅崎 薫 (埼玉県立大学・会員番号 2707)

キーワード：高齢者虐待予防、地域包括支援センター、家族支援

### 1. 研究目的

在宅における家族などによる高齢者虐待（以下、虐待という。）は、地域包括支援センターが中心となり、支援と対応を行なっている。これらの支援と対応には、虐待が発生した段階から、虐待疑い、あるいは、虐待に至らない未然防止の段階まで、幅広いレベルがある。虐待が発生した段階における、分離を必要とする場合では、生命にかかわる問題のため、適切な緊急対応を行うことができるかという難しさがある。一方、虐待疑い、あるいは、虐待に至らない未然防止の段階においては、対象者やその家族の持つ問題が複雑に絡み合っていることが多く、虐待に対する速やかな対応に結びつかない場合も多い。また、家族関係に起因すると考えられる問題も多く、家族関係に対するアプローチを開始しなければ、虐待防止に直結する支援も始まらないため、地域包括支援センターにおいては、家族介入に苦慮している現状がある。

そこで、本研究では、虐待が疑われる事例に対する地域包括支援センターの家族支援の要素を明らかにすることを目的とした。

### 2. 研究の視点および方法

本研究の視点は、虐待の段階のうち、通報や相談により、地域包括支援センターが把握した段階では、虐待には至っていない事例、あるいは、虐待とは判断しかねるが、このままの状態が続くと将来的に虐待に至ることが懸念される事例に焦点化し、その事例に対する具体的な支援と対応を検討することである。

研究協力者は、首都圏の地域包括支援センターにおいて、虐待に対応している熟練の保健師（看護師）4名、社会福祉士2名であった。方法は、研究協力者ひとりにつき、過去に担当した虐待が疑われた事例（既に支援や対応は終了）を2事例選定してもらい、インタビューガイドに基づき、半構成的インタビューを行った。インタビュー内容は、虐待を疑われる事例の把握のきっかけ、事例の状況、家族への支援の経過、支援の際に留意したこと等であった。分析は、質的帰納的アプローチにより、事例の特徴的な点、家族への支援の経過、支援の際に留意したことをコードとして抽出し、整理分類して、家族支援の要素をサブカテゴリ化し、抽象化しカテゴリ化した。

調査期間は、2013年12月～2014年7月までであった。

### 3. 倫理的配慮

研究趣旨を理解し、自由意思により研究に参加した者に対し、研究開始前に再度、研究目的、方法及び個人や施設が特定されないよう配慮すること等を十分に説明し、文書にて同意を取得した。本研究は、埼玉県立大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

### 4. 研究結果

#### 1) 研究協力者及び対象事例の概要

研究協力者の年齢は、 $43.2 \pm 8.1$  才であり、地域包括支援センター勤務歴は、全員7年であった。対象事例は12事例であり、全て親に対する息子の虐待疑いが考えられた。息子には、知的障害、あるいは、精神障害があり、事例により、軽度発達障害が疑われる者もいた。また、親の一方の死別や残された親が要支援・要介護状態になったことを契機として問題が発生していた。さらに、息子の就労と経済問題が顕著であった。

#### 2. 家族支援の要素

家族支援の要素は、6カテゴリ、16サブカテゴリを生成した。なお、【 】はカテゴリを示し、< >はサブカテゴリを示す。

地域包括支援センターにおける虐待が疑われる事例については、まず、<関わりの当初からの違和感と継続的な様子を観察>しながら、<口実を作り頻回な訪問>をする等、【**日頃からの異変の観察と見守り**】を行うことにより、<事例にかかわる幅広い情報収集>をしていた。同時に、<何気ない会話から虐待であることの察知>をしたり、<通常でない状況から異変を察知>したりして、【**異変の察知とその異変の明確化**】を行っていた。また、親と息子の関係を観察する中では、注意深く、【**息子の障害（疑い）の察知**】し、障害（疑い）を察知した段階では、速やかに、<息子と話ができる関係の構築>をしていた。さらに、<息子とじっくり話ができる場、時間の確保>をし、合わせて、<（息子の）主治医への病状確認と緊急時の対応の相談>をする等、【**息子の障害（疑い）に対する集中的な対応**】をしていた。親に対しては、【**親の気持ちのくみとりと対応**】を丁寧に行っていた。合わせて、<他の家族、親族とのこれまでの関係と問題解決パターンの把握>、<家族以外の近隣等のつきあいとその程度の把握>等により、【**キーパーソンの探索と情報収集及び協力依頼**】も同時進行で行っていた。

### 5. 考察

虐待が疑われる事例に対する、地域包括支援センターの家族支援の6つの要素からは、虐待を受けている可能性のある親への対応を行いつつも、虐待の実態を把握するために、“異変”の観察と家族以外のキーパーソンも探索しながら情報収集をしていることが示唆された。とりわけ、保健師（看護師）は、息子の障害の有無に着目した関わりと、息子との関係構築に支援の焦点をあてていると考えられた。